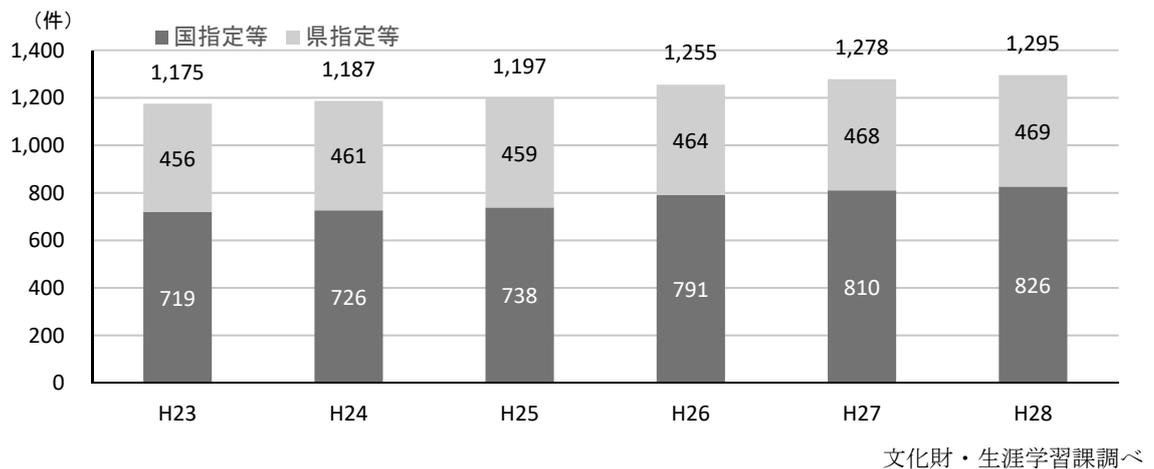


(2) 文化財の保護・継承、活用

現状と課題

- 文化財は、本県の歴史や文化を理解するためにはなくてはならないものであると同時に、将来の文化の向上発展の基礎となるものであり、県民の貴重な共有財産である文化財を安定的に保護し、後世に継承していく必要があります。
- 文化財の防火・防災への対応や災害時等の文化財の救出体制の構築が求められています。
- 文化財の保護・継承を図りつつ、観光振興、地域づくりや地域おこしといった地域振興に積極的に活用していくことが求められています。
- 県民の文化財への関心、保護意識を高めるとともに、文化財活用の推進を図るため、地域の文化財や歴史を学び、再認識、再発見するための場や機会の提供、充実が求められています。

図7-(2) 国・県指定等文化財の件数の推移



目指す成果

- ◆ 所有者、行政、県民が協調して適切な文化財保護の推進を図ります。
- ◆ 文化財の新たな価値を引き出します。

主な施策の展開

文化財の保護・継承、活用を促進するために、次のような取組を進めます。

① 文化財の保護・継承、活用

- 国や市町村と連携した文化財の計画的な指定、登録を進めるとともに、文化財の現状把握を適切かつ確実に進めます。
- 文化財所有者が行う文化財の修理・防災や公開・活用への取組に対する支援を行い、文化財の保護・継承、活用を推進します。
- 開発事業と調整を行い、埋蔵文化財の保護を図るとともに、記録保存の必要な遺跡については、発掘調査を実施します。
- 文化財に親しむ機会や場を提供・充実するため、県立歴史館における考古・文献史資料など歴史的資料の収集・調査研究や公開・活用を積極的に行うとともに、地域の課題解決など「地域貢献型」の取組を推進します。
- 歴史的景観の保持・保存の取組、歴史文化基本構想の策定、日本遺産認定地域への支援などにより文化財を生かした地域づくりや観光振興を図ります。
- 地域の誇りの核である建造物の世界文化遺産登録や、無形民俗文化財のユネスコ無形文化遺産登録に向けた、市町村や保存団体等の取組を支援します。



重要無形民俗文化財「大鹿歌舞伎」  
(中学生による歌舞伎公演)

成果指標

成果指標項目	現 状	目 標	備 考
国・県指定等文化財の件数	1,295 件 (2016 年度末)	1,450 件 (2022 年度)	文化財・生涯学習課調べ 件数は累計
県立歴史館の県内小学校による利用率	50.0% (2017 年度)	55.0% (2022 年度)	文化財・生涯学習課調べ

※ 目標の年次は、本計画の最終年度の実績を評価する 2023 年度に把握できるものとしています。

参考指標（施策実施にあたって参考とするエビデンス）

参考指標項目	現 状	分析の視点	備 考
県立歴史館入館者数	112,390 人 (2016 年度)	常設展示や企画展 などの効果を把握	文化財・生涯学習課調べ